公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あいらっこ			
○保護者評価実施期間	令和 7年 2月 15日		～	令和 7年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数)	29
○従業者評価実施期間	令和 7年 2月 15日		～	令和 7年 2月 22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 21日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎日 利用者様が安心して楽しく活動でき、保護者様が安心してご利用できるように支援に努めています。幅広い年齢層の他児との関わりで、小学校1年生から高校3年生までの利用者様が一緒に活動できています。楽しみながら学び、心の成長ができるように利用者様の声を受容し認めながら、職員が統一した思いで携わっております。	担当制での支援を行っておりません。職員全員が利用者様の全員の特性を理解し、全ての利用者様の支援に関わることができるように取り組んでおります。相談できる職員がたくさんでき、こどもたちの判断で一緒に活動する職員を選択できる環境となっております。生活空間における安全面や衛生面等においては十分に気を付け、活動内容に合わせた配慮等を行っております。定期的に、外部講師の専門的視点からの助言を受けることで職員のスキル向上を図っています。肯定的な声掛けややる気を起こさせるようなポジティブな言葉を使うよう心がけています。	支援に関する職員も含め、所内での活動について自己選択・自己決定できる環境をつくることで、これからも子どもたちが安心感や楽しみを感じられる場づくりに取り組んでまいります。ご本人や保護者の方が安心してご利用できるように、障がい特性により様々な場面を想定しながら、支援できるように努めてまいります。外部や法人内部の研修会へ積極的に参加し、所内で伝達研修を行うことで個々のスキル向上を目指しています。
2	適切な支援の提供に努めています。成長発達に応じた活動プログラムを提示し、飽きの来ない支援内容の工夫を行っています。	季節に合わせた行事やイベント、外出行事で社会との交流機会の提供などを年間行事に取り入れて実施している。日々のプログラムは一つに絞らず、利用者様が活動の選択を出来るように支援している。また、ニーズに合わせて個別活動(療育)や小集団での活動(制作やおやつ作り)、集団(リトミック・ゲームなど)を通して、多様な体験が出来るように支援している。職員間で事前に話し合った上で、様々な内容のプログラムを立案・実施している。	自己決定でき、行動できるような環境作りさらに努めてまいります。色々な経験を増やし成長への支援を増やしていく。地域との交流が少ない為、交流の機会を増やす。それぞれの活動から作る楽しみ、食べる楽しみだけでなく、作る過程での利用者様も同士の関わりの中で、主体性を発揮できるよう支援していきます。
3	保護者様と利用者様の状況を伝え合ったり相談したりする等、よく意思疎通をとれている。所属学校と連携することで、クラスでの様子や学習状況の把握し担任の先生と情報共有を行うことで、その子に合わせた支援内容を考えていく	定期的な面談、引継ぎの際や連絡帳でも客観的事実をしっかりと様子が変わるように記入してお渡ししています。お忙しすぎずあまり直接話せない保護者様とも、必要に応じてメール等も活用し、報告・連絡を丁寧に行っている。保護者様の要望に応えられるよう送迎時間の調整等を行うことで、保護者様の負担軽減に繋げている。利用者様の成長や課題を参考にして、更に、療育で取り組んでいく課題や支援内容を確認しながら進めていっている。	誕生日月での面談を設定しているが、面談をあまり行っていないので、必要に応じて実施し保護者様がより安心して話したり相談したりできるようにする。様々な場面においても人間関係や社会性を身に付けられるように保護者・職員と情報共有し、成長を見守っていけるように努めてまいります。所属学校と保護者のパイプ役となり、利用者様が安心して過ごしやすい環境づくりを目指す。所属学校の先生と連携が取りやすいよう信頼作りを行ってまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	指導室室内の環境整備、支援内容の設定。スペースの確保について	指導室内で、活動内容により、エリアを分けているが楽しそうな声が聞こえたり動きが多かったりすると、個人活動に支障が出ています。環境設定から、学ぶ事を楽しいと感じてもらえる課題や教材の準備、支援方法が必要と感じています。成功体験から自信に繋がり学校生活が楽しいと感じてもらえるような療育をしたいと考えています。「学習」に触れていってもらえるような療育に取り組んでいきたい。	来所時間帯が違うこともあり、必要に応じて、自由時間の過ごし方を見直し、おやつや宿題に取り組むお子様が多い時は、静かに取り組める活動を提供し、落ち着いた空間になるようにしていきます。学力アップの場所ではなく、学習へ向き合う姿勢やSSTで将来の為の目標をもって活動する場所であることを周知し、学校生活を送る為の補助的な場所と理解してもらおうことも必要と考えています。
2	専門性のある職員確保。専門職による支援が望まれている。	理学療法士・言語聴覚士・心理的支援など専門職による直接支援が望まれています。現段階では確保できていません。姿勢維持や体のしくみや機能、心のケアなどより専門的アプローチがあれば、子どもの身体の成長に生かせることができるのではないかと考えております。	言語聴覚士、理学療法士や心理士などの専門分野の人材確保ができるよう継続して働きかけを行ってまいります。必要な人材が確保できるまでの間、現有の直接支援者が研修を重ね専門性につながる支援に取り組んでいきます。
3	家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族も参加できる研修会等の機会について	保護者からの個別相談に対するアドバイスや助言はできていますが、多くの保護者を対象とした研修や一部で情報提供の取り組みはできていません。必要性を感じることもありますが、さまざまな特性のこどもたちにご利用いただいており、課題感もさまざまであるため、一律的なペアレント・トレーニングを実施することが効果的か検討する必要があると考えております。	ご利用者の皆様全員に必要な情報は保護者会等を通してお伝えしながら、各ご家庭やこどもの個別の課題感や支援については、随時メールや電話等で情報共有させていただき、必要に応じて面談の場を設けて課題にあわせて情報提供やアドバイス等を行ってまいりたいと考えております。今後は年間計画に研修等を組み込むなど、こどもに対する家族の対応力向上につなげていきたいと思っております。